

令和5（2023）年度 学校と地域の連携推進セミナー①

実施報告

実施日：令和5年6月16日（金）

当セミナーは、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」のそれぞれの視点から、学校と地域が連携・協働した活動に携わる際に必要な知識や技術の習得を目指すことをねらいとしています。今回は、地域学校協働活動推進員養成研修との合同開催として実施しました。

第1回は地域と学校の連携・協働の必要性について学ぶ機会となり、行政関係者や教職員、地域コーディネーターなど13名の方が参加しました。

○ 講話「地域と学校の連携・協働の必要性」

全国体験活動ボランティア活動総合推進センターコーディネーター 大坪 直子 氏
（日本ボランティア学習協会常任理事）

大坪先生は元神奈川県立高等学校の教諭であり、その間に担当したボランティア部の顧問としての経験が、現在の講演活動などのベースの一つとなっています。今回は、ボランティア側の視点も踏まえた、地域と学校の連携・協働の必要性に関する講話でした。子どもたちの育ちを地域が担う理由や10年後も住み続けたい地域をつくる活動の意義、そのために必要な地域学校協働活動の推進、地域学校協働活動推進員と地域コーディネーターの活動の様子、ボランティアに協力してもらう方法などについて、全国の実践事例にも触れながらお話いただきました。受講者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

講話後のふりかえりの時間では、①講話の感想、②講話から得た新しい学びや気づき、③新しい学びや気づきを生かした今後の活動へのアイデアなどについて、受講者同士で話し合いをしていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・大坪先生の講話から多くの事例を学ぶことができました。これらの事例から学ぶことは多く、課内・同僚と共有を図りたいと思いました。
- ・ボランティア活動の成功例を積み上げ、記録として残すことの意義を学びました。私自身、今回の学びを今後の活動に生かしたいと思いました。また、ボランティア同士のコミュニケーションを図ることができる共有スペースの設置など、学校に働きかけていきたいと思いました。
- ・地域と学校の連携・協働の視点として、地域と学校、それらに関係する人々の視点を重視することの大切さを理解しました。今後の活動において、生徒や地域の人々の視点を意識したいと思いました。
- ・勤務校の地域にどのような人材がいるのかを知りたいと思いました。また、特別支援学校に勤める者として、児童・生徒のために近くの小・中学校との連携・協働を図りたいとも思いましたし、特別支援学校独自の連携・協働を考えたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

